

SATSUKIYAMA



カニクイザルのサチ
◀アカゲザルのフク

ZOO

動物園の仲間たち

- カニクイザル (オナガザル科)
- アカゲザル (オナガザル科)

五月山動物園では、「カニクイザル」と「アカゲザル」を1頭ずつ飼育しています。カニクイザルは、インドシナ・マレー半島など東南アジアの熱帯雨林に生息し、アカゲザルは南アフガニスタンから南中国の樹林に広く生息しています。両種ともに果実食が中心で、植物の葉や花、時には昆虫類を採食し、食料を一時的に入れておくほお袋を持っています。名前に「カニ食い」とついていても、実際にカニクイザルがカニを食べることはあまりないようです。

2頭を比べて、体が大きなほうがカニクイザルの「サチ」(オス)、小柄なほうがアカゲザルの「フク」(メス)です。好奇心があり、気の強いフクは、多様な上下運動ができるように運動場に新しく設置した登り木にも真っ先に登り、お気に入り場所を確保しています。一方のサチは、新しい設備にはあまり関心がないようで、高い場所へ登るときも、今までどおりの方法を変えないマイペースぶりです。また、のんびり屋でもあり、フクの気迫に押されてしまうことも度々です。性格が正反対のようにも思える2頭ですが、食事などの行動を観察していると、2頭間のルールがあり、うまく生活していることが分かります。

五月山動物園では、4月末現在82頭の動物を飼育していますが、最も飼育年数が長いのがこの2頭で、今年共に29歳になります。オナガザル科の寿命が約25年であることを考えると、2頭は長寿であると言えます。長い間、五月山動物園を見守り続けてくれているサチとフクを、これからも温かく応援してあげてください。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・(株)リビングプロシード(フリーダイヤル☎0120-679-355)へ。

配布業者が変わりました

今号より配布業者が変わりました。それに伴い連絡先を変更していますので、ご注意ください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています